対象	小学校高学年以上
教科	国語科
該当単元	小学６年 語彙力を付ける 語句の由来などに関心をもつ
教科書	光村図書・東京書籍等
掲載日	2019.10.10. 朝刊県内総合 12版

「歌舞伎 また見たい」

御園座 招待受け親子ら親しむ

御園座演劇図書館副館長の甕さん（右奥）から歌舞伎の観劇のマナーを学ぶ親子＝名古屋市中区の御園座で

名古屋市中区栄一の御園座で公演中の歌舞伎「第五十回記念吉例顔見世」（中日新聞社など主催）に五日、県内外の小学生親子四十人が招待され、舞台を間近で堪能した。

御園座の招待企画に応募した八百組余から、抽選で二十組が招かれた。費用は空調設備の保守管理を手掛ける松本テクニコ（名古屋市守山区）が負担した。

歌舞伎を見るのは初めてという親子がほとんど。観劇前に、御園座演劇図書館副館長を務める甕（もたい）佳代子さんが観劇のマナーとポイントや、歌舞伎から生まれた「黒衣」「二枚目」などの用語を解説した。

演目は片岡仁左衛門さん、中村獅童さんら出演の「双蝶々曲輪日記（ふたつちょうちょうくるわ）」と「狐と笛吹き」。豊橋市絹田町の仲谷知子さん（四四）は「小学校のときに祖母に連れられて初めて歌舞伎を見に訪れ、楽しかった。その後、何回か舞台を見た。子どもにも見せてやりたくて」。四時間以上に及ぶ舞台を見終えた長男祐飛君（七つ）は「楽しい場面も、悲しい場面もあって良かった。また見たい」と笑顔だった。

松本テクニコ会長の松本太一さん（七七）は「子どもたちが末永く歌舞伎に親しんでほしい」と話した。

問１：歌舞伎は何時代に生まれた伝統芸能でしょう。　（　　）時代

問２：本文中に「歌舞伎から生まれた『黒衣』『二枚目』などの用語」とあります。

それぞれの読みと意味を調べて書きましょう。

・黒衣　　読み（　　）

意味（　　）

・二枚目　読み（　　）

意味（　　）

発展：歌舞伎から生まれた言葉は、下に示したようにたくさんあります。興味のある言葉の意味を調べてみましょう。

黒幕　　修羅場（しゅらば）　　幕の内弁当　　どんでん返し

市松模様（いちまつもよう）　　定式幕（じょうしきまく）

花道　　見栄（みえ）

【活用にあたって】

語彙力を付けるには、多くの活字に接することが大切です。新聞や本をたくさん読むことです。

新聞を読んでいると、今まで出合ったことのない言葉に出合うことがあります。どんな意味なのか前後の文脈から推定できないときもあります。そんな時は迷わず国語辞典で調べましょう。語源や、その語がどのようにして伝わってきたのかなど、「言葉の秘密」に触れることができるかもしれません。

解答例

問１：江戸

問２：黒衣（くろこ・くろご）

①歌舞伎で黒い衣服を着た後見人。また、その衣服。

②かげで支える人。

二枚目（にまいめ）

次ページの記事を参照してください。

発展：2017 年 3 月 27 日付の中日新聞が参考になります。

このように、新聞は語彙力を付けるにはもってこいなのです。

粋也（いきだね）歌舞伎詞（かぶきのことば）

四百年以上の歴史を誇る歌舞伎だが、新たな趣向で上演しようという模索が進んでいる。その一つである、江戸時代の芝居小屋の風情を味わえる公演「名古屋平成中村座」が六月、名古屋城にやってくる。歌舞伎は格式の高い「古典芸能」と思われがちだが、実は違う。私たちが日常的に使っている言葉の中には歌舞伎由来のものが意外とある。江戸時代、庶民の間で育まれてきたからこそ、現代にも脈々と受け継がれている。

（放送芸能部・加藤智子）

黒幕

主に夜の場面を示す背景幕として、また、死んだ人物や、舞台の不要な部分を隠すために使われる。現代のように、表面に出す陰で他人を操る人物というマイナスの意味合いはなかった。

花道

客席の左後方から舞台まで延びる道。役者が登場したり引っ込んだりする場面は、何らかのしぐさや見得をするなど華やかな見せ場となることから、現代では「惜しまれて引退する（花道を飾る）」などの意味で使われる。

修羅場

もとは阿修羅（あしゅら）と帝釈天が闘う場所のこと。歌舞伎では写実的な戦闘場面に限って使われるが、現代では男女のトラブルを表す言葉として多く用いられる。

幕の内弁当

幕の内とは芝居と芝居の間の休憩時間（幕間）などのこと。幕の内に食べた俵形のご飯におかずがついた弁当を指す。観客が食べた、役者が食べたなど諸説ある。

見得（みえ）

役柄の感情が高まる局面で、演技の途中で静止し、その人物をクローズアップさせるため、固定したポーズをとること。現代では、自分の力をことさら誇示するような態度、言動を指す。

どんでん返し

立体的に飾られた屋体を九〇度後ろに倒し、背景の絵が描かれた底辺を垂直に立てる舞台転換のこと。大詰の演出として用いられる。転じて現代では、話の展開や物事が正反対にひっくり返るという意味に使われる。

市松模様

二色の正方形を互い違いに組み合わせた紋様。江戸時代中期、女形の初代佐野川市松がこの模様の衣装を着たことで一般女性の間で大流行して「市松模様」と言われるようになった。三年後の東京五輪、パラリンピックのエンブレムに使われている。

定式幕（じょうしきまく）

歌舞伎の舞台で使われる引幕。黒、柿、萌葱（もえぎ）の三色を思い浮かべるが、中村座は黒、白、柿の三色。初代勘三郎が、幕府の御用船が江戸に入港するとき、得意の木遣（きや）りで艪（ろ）こぎの音頭をとったほうびに船覆いの幕を拝領し、後にその配色が定式幕となったと伝えられている。

二枚目

江戸時代、大阪では劇場正面に掲げる看板の二枚目（二番目）に、やわらかい演技を得意とする若手の人気俳優の名前を書くことになっており、後に美男子、やさ男を表す意味に転じた。三枚目は滑稽なことをする役、道化役。

デザイン・井上彰吾
イラストはイメージです